

東京競馬場スタンド 第2・3期工事

設計：松田平田設計・日本競馬施設

D+T | BE

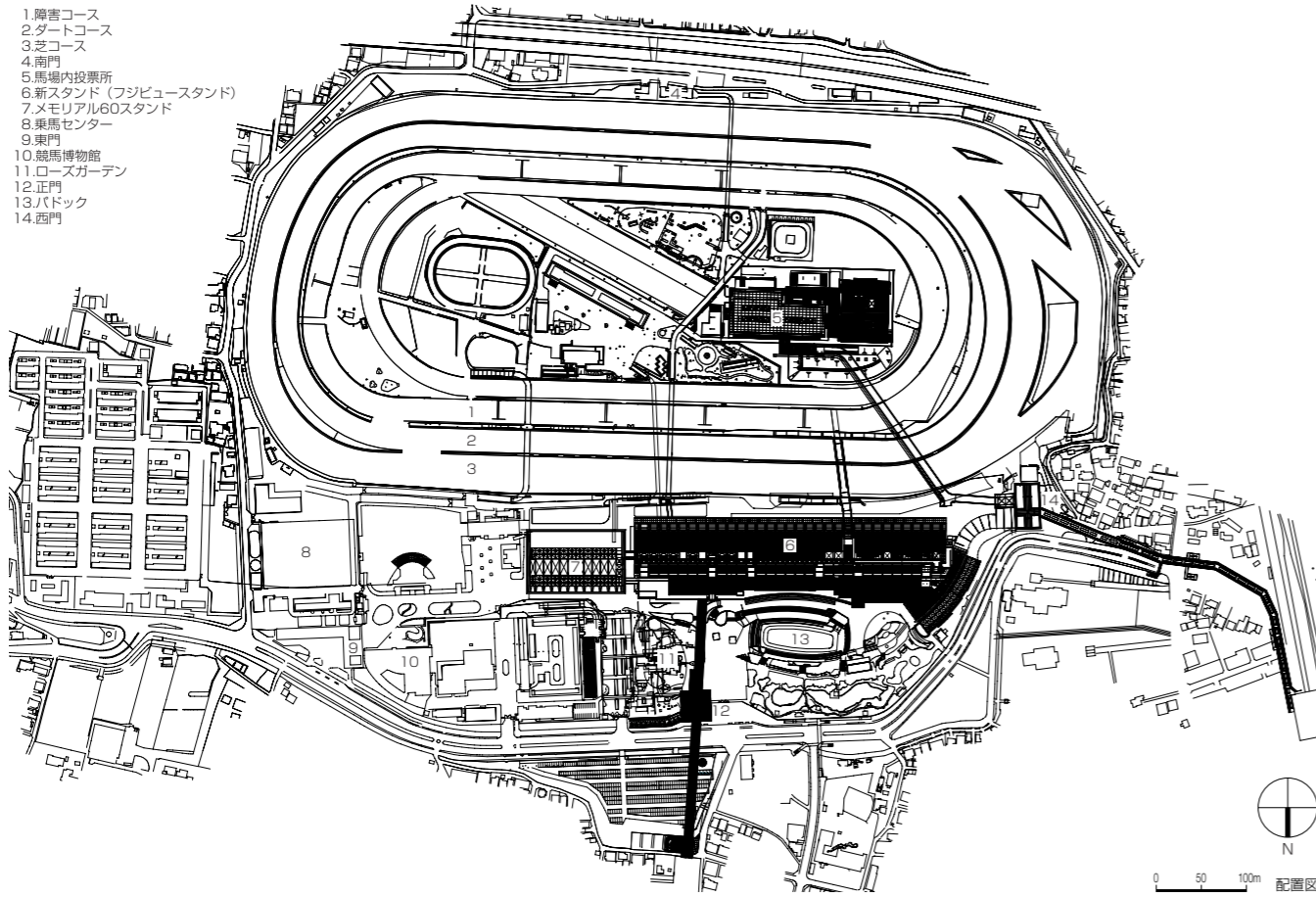


観覧席



馬場から見た新スタンド全景

- 1.障害コース
- 2.ダートコース
- 3.芝コース
- 4.南門
- 5.馬場内投票所
- 6.新スタンド（フジビュースタンド）
- 7.メモリアル60スタンド
- 8.乗馬センター
- 9.東門
- 10.競馬博物館
- 11.ローズガーデン
- 12.正門
- 13.パドック
- 14.西門



Design + Technique

Best Equipment

東京競馬場新スタンド (第2・3期工事)

齊藤英己
HIDEMI SAITO

□歓声を肌で感じる

都心の喧騒を抜け出し、武蔵野の面影の残る府中に、この競馬場があります。大きく広がる青い空と緑の馬場、その向こうには多摩川が流れ、川面を抜ける南風が心地良く感じられます。スタンドの北側に残る緑は、大國魂神社へと続き、街の中に大きな森を形づくっています。

「自然と一つになる。人・馬・自然との響演」、これをテーマに始まった今回の改修工事でも無事完了し、2007年4月21日、グランドオープンを迎えました。工事期間で7年、プロポーザル、設計期間を含めると優に9年を超

える時を経たこととなります。

そして5月27日、競馬の祭典「日本ダービー」が開催され、12万人を超えるファンを集め賑わいました。メインレースでは、馬の入場やレース開始のファンファーレとともに、競馬ファンの多くが新聞を持つ手を高々と掲げ、歓声を上げます。その声援は、45mの吊り構造の大屋根に反射し、場内にこだまします。同じ大観衆の歓声も、東京ドームや国立競技場では耳に響くものですが、ここ東京競馬場の歓声は、肌を震わせず。馬場を駆け抜けるサラブレッドの雄姿を間近で見ながら、一度でもこの歓声を肌で感じると、競馬の醍醐味を忘れられなくなります。

□サービスの質が求められる時代

バブルの好景気が終わって以降、競馬場の売り上げ・入場者数の減少が続いていました。ファンは財布のヒモを引き締め、サービスに対しても見る目が厳しくなっています。

耐震強化のために始めた改修工事ですが、当然、建て替えるに当たっては、サービスに質が求められるこ

とになりました。

少しでも座れる場所を多くつくるとは当然とし、どの場所に行っても同じづくりであった従来の金太郎飴形態を改めました。

新スタンドだけでも約300mの長さになります。そのため、自分の位置を認識しやすいようにウェイファインディング（形態や色彩の変化で空間認識を高める）の要素を用いました。1期から3期へ、工事ごとに場面や時代でテーマを変え、それに合わせて材料・形・色彩に変化をつけました。

特に3期工事で完成した正入場門は、目黒から移転した当時のアーチ型の門をモチーフにして、1階の吹抜けは歴史を感じさせる質感でまとめ、3階はガラスの透明感とモノトーンで現代風に軽快にまとめています。

そして何よりも競馬場でありながら、競馬以外の楽しさ、憩い、癒しの空間づくりを行いました。3階は、馬券売り場をつくらず、東西に伸びるストリートとしました。西にはシアター、中央にはカジノ風広場、東には外部の森と一体となる吹抜けコート。そして

これらを中心に、ストリートに面してカフェ、レストラン、ショップが点在しています。

そして当然、トイレにもサービスの質が求められました。従来は、「競馬場のトイレは和式が基本」、これが一般的なルールでした。そのため、和：洋の便器比率は7：3。トイレは基本的に汚い場所、だから洋式便器には座りたがらないと思われてきました。

まず、ここで意識改革を行いました。綺麗なトイレをつくる。綺麗であれば、洋式便座にも座る。家庭のトイレの9割が洋式である現在、競馬場のトイレも洋式化が当然…という結論です。

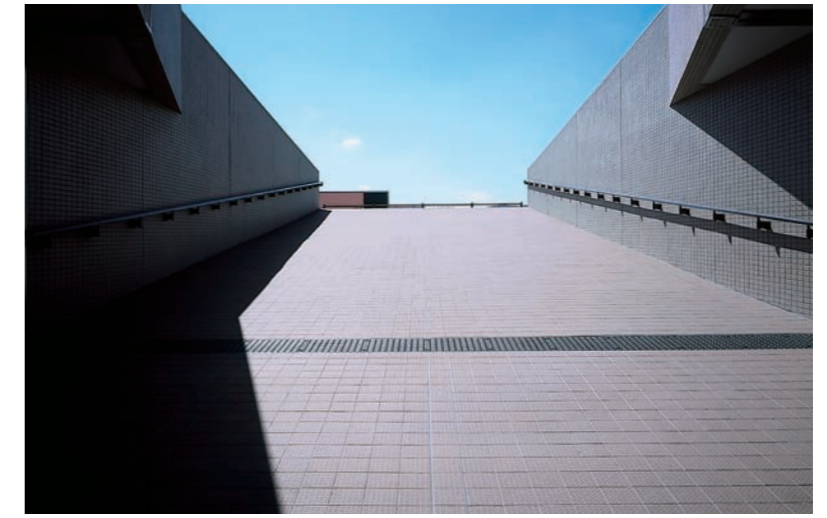
これに対し「洋式便器に腰掛けて、競馬予想をする輩が増える…」という意見が出ました。しかし、これは便所以外のサービスを上げることで解決できると考え、先の“和：洋比率”は逆転することとなりました。

□つくりながらの改善

1期エリアには、競馬を開催するための業務諸室が集中しました。そこで2・3期では、ファンエリアを大幅に拡張したのが特徴の一つです。検量室前で競走馬や騎手を見ることのできる「ホースレビュー」、旧スタンドの2倍以上の集客能力のある「パドック観覧席」やその他、休憩スペースも充実しています。

また、最も混雑する馬場側に新たなトイレを増設しています。1期工事の経験を通じて、スペースの取り方に工夫を行い、少しでもファンエリア確保に努めています。

そしてまた、1期工事での不都合点は、2・3期工事に反映させました。例えば、1期工事のストール型の小便器は、低リップ式でなかったため、小さい子どもは抱っこしないと用が足せませんでした。そこで、2・3期工事以降



1階から馬場へとつながるスロープ。ファンが駆け上がるため、ノンスリップタイルを全面に使用

では、低リップ式に変更するなど、つくりながら常に改善を行いました。

□タマゴが先か、ニワトリが先か

「車いすを利用しているファンは、ほとんど見かけない。だから、障害者用トイレは必要最低限でよい」、「それは、障害者用のトイレや観覧席がない、または少ないからで、新たにきちんと設ければ、障害のあるファンの来場も増える」。

今回の新スタンドの設計当初は、多目的トイレの在り方を巡って、上記のようなやり取りがありました。

まさしく「タマゴが先か、ニワトリが先か」です。障害のあるファン、車いすを利用するファンにとって、自分たちが利用できる席やトイレがあるか否かは重要な要素です。当然、出かける前にはチェックをします。

今まさに高齢化社会です。今後、更に増える高齢者に対しても、優しい施設であることが、当然、求められます。そして、「高齢者・障害者に優しい施設づくり」は、すべての人にとっても優しい施設なのです。この結果、実際に1期工事以降、車いす利用者や障害者の来場は増えました。

□右から左、左から右

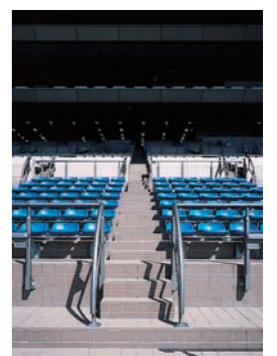
1期エリアのファンの動向を見ながら、2期工事は進められ、当然、3期工事の設計に反映することになります。「障害者用トイレは最小限」といった意見はなくなり、逆に新たなサービスが求められることになりました。

例えばトイレの手すりの位置にしても、左側にある手すりは、右手が麻痺した人は使えても、左手が麻痺した人には使えません。「手すりがありさえすれば良い」といった考えだけでトイレをつくってしまうと、使える人が限られてしまいます。そこで1期工事のトイレで、右側に手すりを付けていれば、2期工事以降では左側に付けるように、そして可能であれば左右両方の手すりを取り付けることにしました。ちょっとした配慮です。

□同じものをつくらない

また、障害の種類やその程度は、人によって異なります。便器に対して、前からアプローチする人もいれば、側面、斜めからアプローチする人もいます。介護する側も、便器の横に立って介護する人もいれば、車いすの後ろからや便器の後ろに立つ人などさまざまです。

障害の種類によって、程度によって、介護する方法によって、便器、ベッド、



観覧席階段通路

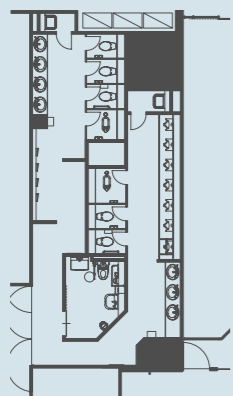
5Fトイレ



レストラン階トイレ入り口



男子トイレ ●INAX使用商品●洋風便器：C-26UCDT、隠ぺい型自動FV：OKC-581-TU1、タッチスイッチ：OKC-2BP-TU1、普通便座：CF-39AK



5階トイレ平面図 1/300



多目的トイレ ●INAX使用商品●大便器：C-5KR、フラッシュバルブ：OKC-581,OKC-2BT、洗面器：L-365APRS、自動水栓：AM-500K (100V)、水石けん入れ：KF-24BN、手洗器：AWL-71AP (P)、背もたれ：KFC-270T1トク、紙巻器：CF-A63S、鏡：KF-4590A、シャワートイレ：CW-E45-CK

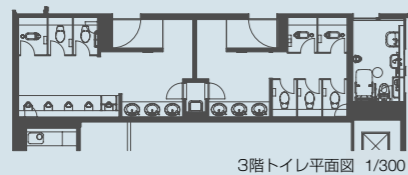
3Fトイレ



女子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2094FCS、自動水栓：AM-91K (100V)、水石けん入れ：KF-24B



男子トイレ ●INAX使用商品●センサー体形小便器：AWU-506R



3階トイレ平面図 1/300

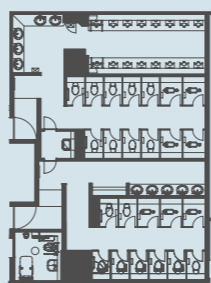
4Fトイレ



男子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2094FCS、自動水栓：AM-91K (100V)、水石けん入れ：KF-24B、センサー体形小便器：AWU-506R



多目的トイレ ●INAX使用商品●オストメイト対応汚物流し：S-203U

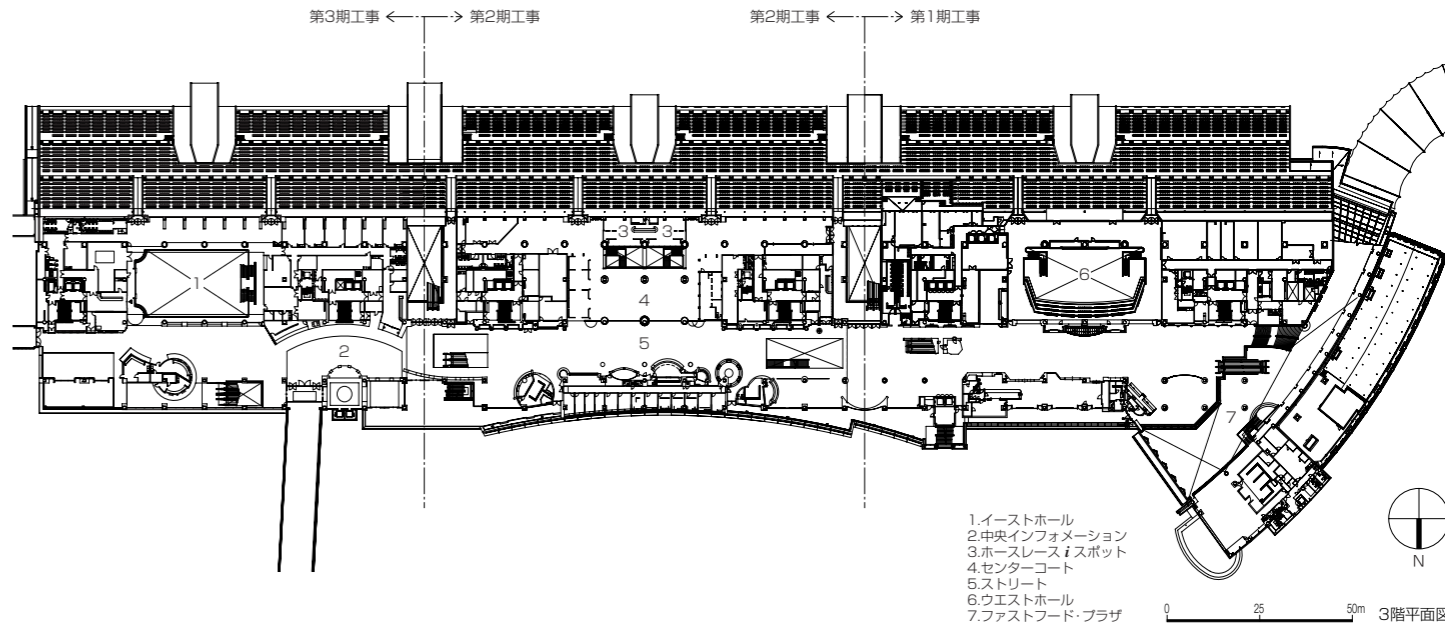


4階トイレ平面図 1/400

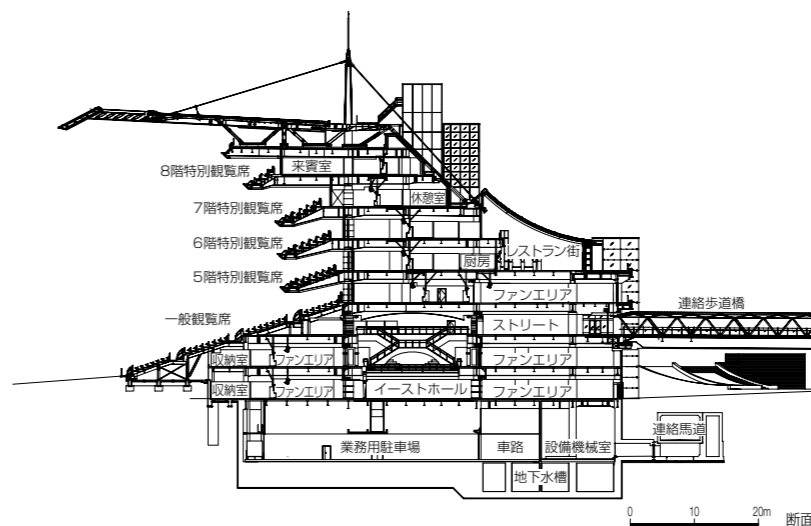
2Fトイレ



男子トイレ ●INAX使用商品●センサー体形小便器：AWU-506R

1.イーストホール
2.中央インフォメーション
3.ホースレスイススポット
4.センターコート
5.ストリート
6.ウエストホール
7.ファストフード・プラザ

3階平面図



断面図



新しくなった正入場門 目黒から府中へ移転した当時のアーチ型の正門をモチーフとしている

手洗いの位置が変わって当たり前です。

そのため2・3期工事では、できるだけ同じトイレをつくらないこととしました。2期工事では、1期工事のトイレと扉の位置を変え、左右逆につくる。3期工事では、2期工事のトイレと便器の向きを90度変えることを試みたりしています。

□更にサービスを

更にオストメイト対応も行うことになりました。当時、まだ出始めたばかりのものでしたが、調べてみればオストメイト人口は意外に多く、競馬ファンの中にもオストメイト対応者はいるはずと考えました。数が多くなくとも、少しでもファンにも喜ばれる施設を目指し、採用に至ったのです。

東京競馬場の広いスペースの中に、障害者にとって、どこかに自分の使いやすいトイレを見つけて、ご利用いただきたいと思います。

□滑らない、つまずかない

娯楽・レジャー施設である以上、安全・安心が求められるのは当然です。競馬場では、特に床の滑りに対する安

全が求められました。

GIレースでは、1週間以上前から各門の前にシートを敷き、泊りがけで観やすい席を確保しようとするファンもいます。こういったファンは、レース当日、開門と同時に一斉に駆け出し、ベストポジションを確保しようとします。そういうファンだけではなくにしても、レースごとに場内を駆けるファンも多く、床の滑りに対しては気を掛けています。

前にも述べましたが、今回、1期から3期にかけてエリアごとにテーマを変え、変化に富んだ施設づくりを心掛けたために、国内・海外を含め数十種類のタイル・石を使用しています。それらの一つひとつに滑り試験を行いました。そして基本的に滑り抵抗係数

(C.S.R.)を0.45~0.70前後にし、種類が変わる床材同士の係数の変化が0.2を越えないようにしました。床の摩擦の変化によって、滑ったり、つまずいたりすることを少なくするためです。そこで工事では、床の滑り係数ごとに色分けをした床材係数マップをつくり、工事を進めました。

□更に改善は続く

新スタンドの工事は終了しました。しかし、多くのファンに少しでも使いやすく、楽しんでもらう施設を目指し、新たなサービスが続けられています。競馬場の改善は、ファンがいる以上、永遠に終わらないようです。*

さいとう・ひでみ—松田平田設計 特定建築設計部主管／1961年生まれ。1985年、東京理科大学工学部建築学科卒業。大林組、建築研究所アーキヴィジョンを経て、1989年、松田平田設計入社。主な作品：古河市福祉の森総合会館（1995）、ウインズ浅草（1998）、半田市運動公園陸上競技場（1998）など。

■建築概要

名称：東京競馬場スタンド 第2・3期工事
所在地：東京都府中市日吉町1-1
設計：松田平田設計・日本競馬施設
施工：第2期工事：清水・大成・熊谷JV（第1工区）、竹中・フジタ・福田JV（第2工区）、第3期工事：清水・鹿島・佐藤JV（第1工区）、竹中・フジタ・飛鳥JV（第2工区）
敷地面積：622,635m²
建築面積：38,312m²
延床面積：171,429m²
規模：地下1階、地上9階、塔屋1階
構造：RC造、SRC造、S造
工期：2000.6~2007.3（第1~3期工事）
●INAX使用商品●PS-150/S024C-2101,2102